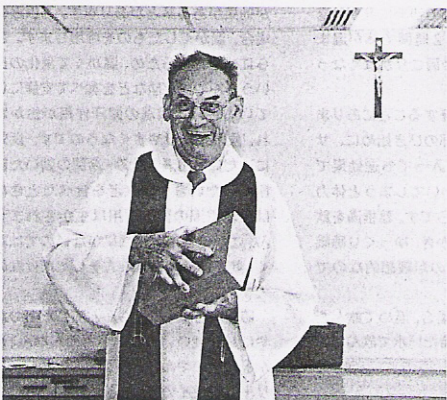


母なる地球を癒す

③ アダム・グダレフスキ神父



アダム・グダレフスキ神父 (72) 1928年8月22日米国生まれ。米国の非営利団体「インター・エイド」ディレクター。香港を拠点に、海外貧困地域の知的障害児のための生活支援を手がける。日本人カトリック会のアドバイザーでもある。ハッピーバレーの聖カトリック教会 (2F 教室) で毎週日曜午前11時にミサを開く。

日本語を自在に操るからだろうとか、外国人というイメージがない。ユーモラスで、大変親しみやすい人だ。郷愁を呼び起こすような、懐かしみ味わい深い話し方。一聞てどこかの方言に似ているが、それがどこか思い出せない。はるか遠い、古き良き日本のそのようだ。民族学や宗教学の話題になれば、潤沢な知識の海にいざなわれ、こちらはいささか恍惚感に浸る。

(編集部・西原哲也)

アダム氏は一九二八年、米国のベンシルベニア州の小さな炭鉱の村に生まれた。決して豊かではなかったが、敬けんなカトリックの教えを守る清楚な家庭だった。父親がポーランドからの移民で炭鉱労働者として働き、地元出身の母親が家事を切り盛りして家庭を守った。アダム氏は十人兄弟姉妹の九番目、生まれとどき、カトリックの洗礼を受けた。

◆米軍に入隊

世界が戦後の混沌期に

う国は、アダム氏の興味を

◆東京の地図を自作

初めて目にした日本といふ国は、アダム氏の興味を

引いてやまなかった。西洋文化とかけ離れた衣食住や宗教観、謙譲の精神と誇り高さが奇妙に混在した独特の国民気質。目にするすべてが新鮮だった。米軍駐日本部は、東京の丸の内ビルにあった。時間には有り余るほどあったため、自分でサトリック教会の手助けをうけるようになった。もつと多くの教会を手伝いたが、東京のどこに教会があるのかさえわから

その後、親しくなった自衛隊員で英語を話す日本人に乗って、路地裏

◆神父になりなさい

当時の駐留米軍には、アドバ

イザイと信頼の厚いあるカトリックの司祭がいた。二年間の軍役を終える軍人たちが、米國に帰国してどんな方面に進むべきかの相談役にもなった。彼は、東京で

その後、親しくなった自衛隊員で英語を話す日本人に乗って、路地裏

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

毎日のように、街に繰り出して飢えた人々や孤児院を見つけてきては、米軍の食糧を配って歩いた。「本当は違反行為なんですけどね」

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

◆米軍の食糧を配る

翌年の感謝祭だった。アダム氏は、手伝っていた赤羽聖美学園のシスターたちが、孤児院に配る食べ物に困っているのを知った。そこでアダム氏はシスターたちを連れ、米軍の孤児院に配る食べ物や菓をもたせませんでした。厨房長は鷹揚な男だった。「欲しいだけ持って行きな

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

◆日本人理解できた

約十年の神学校での勉強を終え、神父として赴任した先は、なんとまた日本

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

◆知的障害者を支援

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで

「お前は神父の道を歩きなさい」。アダム氏にも迷いはなく、家族も喜んで



教会でミサを行うアダム氏